

会 議 録

1 会議名

第5回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議（公開）

ア 令和2年度地域活動支援事業追加募集分の審査について

(2) 報告（公開）

ア 会長報告

（報告なし）

イ 委員報告

（報告なし）

ウ 市からの報告

・「公の施設の再配置計画」の取組について

(3) その他（公開）

ア 研修会について

イ 次回の開催日時等について

3 開催日時

令和2年7月29日（水）午後6時から午後7時36分まで

4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 4階 市民活動室4・5

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：相澤誠一、赤川義男、池田幸博副会長、小野正広、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長

・事務局：浦川原区総合事務所横田所長、小嶋次長、五井野次長、産業グループ山本グループ長、滝澤主幹、建設グループ渡辺グループ長、市民生活・福祉グループ市村グループ長、春日上席保健師長、教育・文化グループ山崎グループ長、総務・地

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は12人全員。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。
- ・会議録の確認：小野正広委員に依頼。

【藤田会長】

それでは「2 協議」に入る。「(1) 令和2年度地域活動支援事業追加募集分の審査について」、前回同様、新型コロナウイルス感染防止のため、提案団体のプレゼンテーションは行わずに質疑応答のみとさせていただく。

また、追加募集の金額が3万円と少額であり、提案件数も1件であることから、前回の点数による個別審査ではなく、採択の可否のみで審査を行いたいと考えている。その辺りについて事務局から説明をいただく。

【五井野次長】

(資料1に沿って説明。)

【藤田会長】

ただ今の説明について意見、質問等があれば受ける。

(会場内から意見、質問等なし)

では、説明のあった方法で審査を行うこととしてよいか。

(会場内から「はい。」の声)

それでは、これより提案者への質疑応答を行う。

(提案者着席)

提案者は「手作りの小さな文化祭実行委員会」である。本日はご多忙のところ出席いただき感謝申し上げます。

最初に簡単な自己紹介をいただいてから質疑応答をさせていただく。なお、質疑応答の時間は5分とさせていただき、5分経過した時点で終了とさせていただく。

それでは自己紹介からお願いします。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

(自己紹介)

【藤田会長】

それでは「手作りの小さな文化祭実行委員会」から提案された「第6回手作りの小さな文化祭」事業について質疑等を受ける。

【北澤（誠）委員】

今回の事業で購入するものは、事業終了後は実行委員会で管理していくのか。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

新型コロナウイルスは未知のものであり、来年もどうなっているか分からないため、マスクや消毒液等、余ったものは来年度に使用したいと考えている。

【北澤（誠）委員】

それならば、適切な管理をお願いしたい。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

了解した。

【藤田会長】

他に質疑等ないか。

【春日委員】

集客見込みの100人に対して、公民館では狭すぎるのではないか。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

昨年まではおおよそ100人前後の入場者があったため、提案書には100人と記載しているが、今年度は、コロナ対策で2m以上の間隔を空けなければならないということで、半分程度になるのではないかと考えている。

【春日委員】

100人は無理だと思われたため、1部と2部に分けて半分ずつの開催を提案しようと考えていたが、半分程度ということであればよい。ただ、万が一、来場者が多くなった場合はどう対応していくのか。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

新型コロナウイルスの関連で外出を自粛している人も多く、また持病等のある人たちなどは出掛けてはこないと考えている。来場者が多くなった場合については、開催までにはもう少し時間もあるので今後考えていきたいが、来場者は40人程度と考えている。

【春日委員】

40人程度であれば良いと思うが、大勢の人が来場された場合の対策をしっかりと皆さんで共有して実施していただきたい。

もう1点、ポスターであるが、今回はどのようにする予定か。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

私たち実行委員が大きな画用紙を使って手作りのポスターを毎回作成しており、予算はかからないようにしている。それを区内の大きな施設に掲示してもらっている。

【春日委員】

了解した。

【藤田会長】

新型コロナウイルス対策に関しては市の基準等もあり、提案者からはその辺も重視しながら進めてもらいたい。

【村松副会長】

購入予定である非接触式の検温計は、集落などのイベントで貸してもらうことは可能か。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

要望があれば、貸し出すことは可能である。

【村松副会長】

非接触式で簡単に検温できるため、要望があった場合はぜひ貸し出していただきたい。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

了解した。

【北澤（正）委員】

スケジュールに関して、チラシを全戸配布するようだが、今回、チラシ作成の予算が入っていない。これで良いのか。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

毎年、チラシ作成は公民館事業として公民館から協力してもらって全戸配布している。

【北澤（正）委員】

了解した。

【藤田会長】

地域活動支援事業の残額3万円に対して補助希望額が3万円で、提案も1件なので、減額は無いと考えるが、減額されたとしてもこの事業を実施するか確認したい。

【手作りの小さな文化祭実行委員会】

減額されても実施する。

【藤田会長】

本日はお忙しい中、おいでいただき感謝申し上げます。地域協議会として審査の参考にな

った。引き続き地域の課題解決に向けての取組を期待している。

(提案者退席)

これより全体審査に入る。審査票に基づき、提案内容が浦川原区の採択方針に合致しているかどうか、また、皆さんの質問や意見等を総合的に踏まえて決定していきたい。また、特記事項等があれば記入いただきたい。

事務局、結果は回収するのか。

【五井野次長】

そのまま結構である。全体審査終了後に回収する。

【藤田会長】

それでは各項目別に多数決を取りたい。

最初に地域活動支援事業の目的に合致しているかどうか、適合すると考える委員は挙手をお願いする。

(合致する10人、合致しない1人)

次に、優先採択方針との適合性について、適合すると考える委員は挙手をお願いする。

(適合する10人、適合しない1人)

続いて、共通審査基準で、今回は「公益性」「必要性」「実現性」「参加性」「発展性」の5項目一括で可否を確認する。一括で賛成の方は挙手をお願いする。

(賛成10人、反対1人)

賛成多数で採択することとする。

以上で地域活動支援事業追加募集分の審査を終了する。

続いて、「3 報告」であるが、「(3) 市からの報告」で「① 公の施設の再配置計画の取組について」、行政改革推進課からお越しいただいている。したがって、「(1) 会長報告」と「(2) 委員報告」は、「(3) 市からの報告」が終わってから行いたいと考えている。

それでは説明をお願いする。

【五井野次長】

本日、行政改革推進課の南雲課長と島田副課長から、公の施設の再配置計画の取組について説明いただく。

【行政改革推進課南雲課長】

(資料2に沿って説明。)

なお、浦川原区においては、現在、施設の再配置に向けて施設関係者と今後の施設の方向性について協議中であり協議が整い次第、改めて再配置候補施設リストをお示しして意

見を伺う。

【藤田会長】

ただ今の説明に対して意見、質問等はないか。

【北澤（誠）委員】

今後詳しく検討する施設の中に、各区のコミュニティプラザなどの施設は入っているのか。全く別物として考えているのか聞きたい。

【行政改革推進課南雲課長】

公の施設であるため、再配置の対象施設になっている。

【北澤（誠）委員】

了解した。

【藤田会長】

他にないか。

【村松副会長】

資料には令和27年に人口が14万人になるとあり、以前から人口減少に危機感を持っているが、上越市として人口を増やす施策等が一切見えてこない。

13区が一番犠牲になっている気がしてならない。地域住民をもう少し大事にしてほしい。でなければ、この場所に住んでいられなくなってしまう可能性も出てくる。人口を増やさなければ段々と先細りになってしまうため、大変だと思うが、上越市全体のことを考えて、税金等の収入や人口等を増やす方法を考えていただきたい。

【行政改革推進課南雲課長】

人口減少の話は、上越市だけでなく全国の自治体が抱えている問題である。

市では、第6次総合計画の中で、人口減少だけでなく、少子高齢化についても重点的に施策を行っていくこととしている。その施策がすぐに少子化や人口減少の対策に結びつくかということ、なかなか難しい部分もあることは理解いただきたい。

また、今回の再配置計画では、必ずしも中山間地域を切り捨てるとか、町場だけを活かすということではなく、いろいろな視点から、その施設をどうしていくか、地域の皆様のご意見を伺いながら考えていくということであり、町場でも聖域無く進めていきたいと考えている。

我々、行政改革推進課が来ると「切り捨てなのではないか。」と思われるが、今の状況を知っていただく中で、地域にとって何が大切かを皆様とひざ詰めでいろいろな意見を交わさせていただきながらこの計画を作り上げていきたいと思っている。ぜひ理解いただき

たい。

【藤田会長】

他にないか。

【杉田委員】

25年後の令和27年には人口が14万人になるということ、また資料の「公の施設の状況」の今後40年間の維持・更新費用の試算が4,325億円になるということで、人口の25年間と維持・更新費用の40年間という年数の違いは何なのか。また、こういった数字は怖いもので、この40年間で4,325億円という金額は衝撃的な、センセーショナルな数字であり、こういった大きな数字を載せることはいかがなものかと思う。

昨年の説明会の時にも旧上越市を中心に集約しない、全体を見渡して十分配慮すると言われていたが、やはり13区の多くが犠牲になっているのではないかと感じている。それは、高田、直江津以外の13区個々の総合整備計画の青写真が作られていないためではないか。

ぜひ、行政改革推進課の皆さんからも13区に施設を作る方向に舵を切っていただき、案を出して、そういったものと見比べて公の施設の再配置計画を作っていただきたい。お金の問題だけで判断しないでいただきたいと思う。

【藤田会長】

杉田委員に確認するが、40年後の心配よりも近々の問題に注視すべきである。また、13区の青写真が無く、13区以外の旧上越市へ施設が集約されていくのではないかとといった内容の意見でよいか。

【杉田委員】

そうである。

【行政改革推進課南雲課長】

今後の維持・更新費用の試算は総務省が作成した全国共通ソフトを用いて算出したものであり、一つの目安として出させていただいた。センセーショナルな数字であるといった指摘もあるが、決して恣意的にお示ししたものでないことを理解いただきたい。

金額は、客観的な物差しが必要なことから具体的な数字を示しながら皆様と意見を交わさせていただきたいと考えている。

13区の青写真の話だが、市全体の総合計画はあるが、13区個別での計画は作成していない。今回、意見という形で伺っておきたい。

また、直江津、高田に集約されるのではないかとという意見であるが、繰り返しになって

しまうが、町場の施設であるかどうかではなく、総合的に地域にとって施設の有り様を考えていく、関係者の皆さんと話をしていく中で、施設の方向性を決めていくという考えであり、決して高田、直江津へ集約していくということではないということは理解いただきたい。

【藤田会長】

杉田委員よろしいか。

【杉田委員】

ぜひ13区個々の計画の青写真の作成をお願いしたい。地域において温浴施設が存続することがどれほど大事なことからといった視点で検討していただきたい。地域にとって温浴施設は必要なものであり、地域の要望を第一に考えていただくような視点をもって考えていただきたい。

【藤田会長】

杉田委員からの要望ということで、願います。他にないか。

【北澤（正）委員】

資料の「3 スケジュールについて」、「令和2年7月～9月で地域協議会に関係者との協議に基づき作成した再配置候補施設リストを示す。」とある。これはあくまで地域協議会へ「示す」だけということに理解して良いか。

【行政改革推進課南雲課長】

再配置候補施設リストを示しながら意見を伺うことになる。「示す」の後に意見を伺うことが含まれていると理解いただきたい。

【北澤（正）委員】

了解した。

【藤田会長】

他にないか。

【春日委員】

このスケジュールについて、7月から9月までにリストを示すということであるが、11月の計画案作成までの間が一番大事なのではないかと思うが、非常に期間が短いと感じる。11月に再配置計画案が作成されるということは、もうすでに決定しているのではないかとも思ってしまう。地域住民の声が本当に反映されるのか疑問に思ってしまう。この期間をもっと延ばして地域住民の声を大切にしていきたいと考える。

【五井野次長】

今後の予定についてお話をさせていただく。

公の施設の再配置計画について、浦川原区では対象が14施設ある。中には現在施設を利用している関係団体と協議中のものもある。一定の方向性を整理して資料を作成し、次回の地域協議会で対象施設の協議状況を委員の皆さんに示したいと考えている。

【春日委員】

この資料だと我々に示されるのは10月くらいになってしまうのではないかと思われたので、次回の協議会で示されるのであれば良いと考える。

【藤田会長】

他にないか。

【五井野委員】

公の施設の再配置計画とは直接関係ないと思うが、確認したい。

財源不足を補うのは財政調整基金だと思うが、3年間で約50億円の取崩しとされている。この中には今年度の新型コロナウイルス対策の10億円ほどの補正予算分は入っているのか。

【行政改革推進課南雲課長】

今回の新型コロナウイルス対策に伴う基金の取崩しは入っていない。

なお、直近の財政調整基金の状況であるが、令和2年度当初予算の段階で101億円ほどの財政調整基金があったが、4月の専決補正や6月の補正で取崩しを何度か行っている。また、本日の臨時議会において新型コロナウイルス対策で補正予算案件を提出している。こういった関係で13億円取崩しており、直近の財政調整基金残高は88億8,727万円となっている。

【五井野委員】

基金が100億円という認識はあったが、実際に現在は88億円しかない、この数字の方がセンセーショナルなのではないかと思う。今後3年間でさらに50億円使うということで、実際の基金残高を資料に記載してもらえると、貯金がわずかな期間で底をつきそうだという、身近に危機が迫っていることを住民も地域協議会委員も感じられるのではないかと思う。この場での回答はなくてよいが、検討していただきたいと思う。

【藤田会長】

次の機会にでも提示してもらえたらと思う。

【池田副会長】

島根県の隠岐島に西ノ島町という小さな町があり、財政破綻で自治体が崩壊寸前であっ

た。そこで町長が議員と一緒にあって再建、再興しようということで、身を切る改革をして立ち直らせたという話がある。そういった改革をしたらどうかと市の職員へ話すと、人事院勧告や県に倣っているという話があって、私から見ると逃げているのではないかと感じる。上越市から見ると本当に小さな財政基盤しかない町ではあるが、そうやって再生したところもあるわけで、少しでもそういった姿勢も見せてもらえたらと思う。

新潟県が47都道府県の中でもマイナスが大きいと新聞でも大きく報道されて知事のボーナスを削減するという話もあったが、頭から行政改革、財政難というのではなく、そういった姿勢を見せることも大事だと思う。我々民間であれば財政難と言っても他に押し付けることもできないわけで、ボーナス、給料を減らすか、倒産するかしかない。私は、上越市役所は上越市で1番の大企業だと思っていて、ぜひそういった姿勢を見せてもらいたいと思う。

【藤田会長】

意見として検討いただきたい。他にないか。

私の方から、再配置計画の大きな問題として、すでに浦川原区では小学校は1つになっているが、学校の統合について出てくるのではないかとと思う。それと保育園についても統合について触れてくるのかどうか、その辺は政治的な問題もあってなかなか難しい部分もあると思うが、そういったことが謳われないと再配置計画が不完全なものになるのではないかとと思う。一番お金のかかる、一番大事なものが抜け落ちてしまうのではないか。

【行政改革推進課南雲課長】

学校、保育園については、この再配置計画の中では触れていない。学校は教育委員会の別の計画となっていて、また、保育園についても民営化等の話もあり、公の施設の再配置計画とは別に取り組んでいる。

【藤田会長】

教育委員会は別計画ということ承知の上で聞いたわけで、市の財政状況や教育といった観点を考えた場合、行政改革の中で触れないのはいかがなものかと考える。

保育園についても、全国的に問題となっているように、民営化すれば良いのかということも含めて統合といったことも考えていかないと、財政計画と結び付いてこないのではないかとと思っている。

他にないか。よろしいか。

(会場内から「はい。」の声)

以上で「公の施設の再配置計画の取組について」の報告を終了する。

(行政改革推進課南雲課長、島田副課長退席)

次に「(1) 会長報告」に戻るが、今回は持ち合わせていない。続いて「(2) 委員報告」であるが、委員の皆さんから何かあれば報告いただきたい。いかがか。

(会場内から「ありません。」の声)

次に「4 その他」で「(1) 研修会について」、事務局からの説明をお願いします。

【五井野次長】

前回の地域協議会において、地域自治区制度及び地域協議会の役割などについて、市の自治・地域振興課長などから研修を受けてはどうかという提案をいただいた。自治・地域振興課長からは承諾を得ており、また、できるだけ早い時期に開催したいということで、8月5日(水)か6日(木)のどちらかの午後6時30分からでどうかという話であった。この日程について協議いただきたい。

【藤田会長】

新任の委員が6割を占めるため、この研修会をぜひ早く開催したいということで、8月5日(水)、6日(木)のいずれかの午後6時30分からということであり、この場で日程を決めたい。

(委員の間で協議)

協議の結果、8月6日(木)の午後6時30分から、ここコミュニティプラザで開催することとする。事務局側もそれで調整してもらいたい。

【五井野次長】

了解した。もう一点、本年度の中学生との意見交換会の開催について、教育・文化グループ山崎グループ長から報告する。

【教育・文化グループ山崎グループ長】

浦川原中学校生徒と地域協議会委員の皆さんとの意見交換会について、毎月定例で開催している浦川原区教育懇談会の中で協力をお願いをしたところ、中学校から、1年生の総合学習の中で意見交換会を行いたいということで快く了解をいただいた。今後、日程や意見交換会の方向性などを地域協議会で協議いただきたい。

【藤田会長】

意見交換会について、中学校から了承を得たということで、日程や内容については後日の協議とする。他にないか。

【村松副会長】

市道の草刈について話したい。

先日、市道川南線の草刈りがあり、桜島から長走、菱田、有島までの間で、長走だけ草刈りをしていなかった。長走町内会の佐々木町内会長からは「あそこは菱田の土地なので刈ってほしい。」と要請があり、地主に問合せたところ「お金を払っても良いから刈ってほしい。」ということで、佐々木町内会長と私ともう一人で2～3時間ほど草刈りをした。現地はカーブで見通しも悪く、通学路にもなっているところであり、なぜ市道であるにもかかわらず草を刈っていないのか、疑問に思っている。もし、草が伸びている状態で事故が起きたらどうするのか。市が責任を持つのか。市の担当者も確認していると思うため、対応をお願いしたい。今回はお金を払っていただいた方には申し訳ないと思うが、市が草刈りをしていればそのお金を出さなくてもよかったという思いはある。今後そういったことの無いように、予算も付けて、事故等が起きないように草刈りをしていただきたい。

【藤田会長】

これについての回答や市としての意見等いただきたい。

【建設グループ渡辺グループ長】

市道延長は、浦川原区では100kmを超えており、その全線を現在の予算で実施することは、なかなか難しいということは理解いただいていると思う。確かに予算ありきで良いのかという議論はある。

今回、指摘を受けた場所について、どのような状態なのか現場を確認したうえで、どのような対応を行うか検討したい。

【藤田会長】

他にないか。

【春日委員】

今年度の地域活動支援事業で、リウラとラウラの補修事業を採択した。そのスケジュールを見ると7月中旬頃に施工となっている。この事業は、地域住民を巻き込んで実施できればよいという意見も出したが、特に中学生が関わることであれば非常に良いと思う。そこで、実施する日程等を周知して住民や中学生を巻き込んで実施していただきたい。

【藤田会長】

特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原の事務局長である池田副会長がいるため、池田副会長から説明をお願いする。

【池田副会長】

リウラとラウラの修繕については、8月1日から作業を始めることになっている。最初に真光寺地内の像の修繕から始める予定である。日程的には1か月程度を見込んでいるが、

天候等の影響もあり、工程どおり進められるか不明なところもある。

私も地域の皆さんと一緒にやっていると発言した経緯もあり、理事会でも検討したが、結果的に小学生に関しては施工業者からはやめた方が良いという話だった。理由は、有機溶剤や塗料などを大量に使用することから汚れる可能性があり、保護者から苦情が来ても責任が取れないということであった。

理事会等でもいろいろ検討したが、後々苦情等が出るのは良くないのではないかとということで、手伝ってもらうことは取りやめとした。しかし、小学生に関しては、修繕が完了した後に、このリウラとラウラの存在、どういった経緯があって誕生したのかなど、きれいになったリウラとラウラの資料を作成して、小学生によく知ってもらうために情報提供するつもりである。また、中学生に関しては、5月末に中学校へ行って校長先生と話をしたが、中学生は、3月末には次年度のスケジュールが決定しており、今年度は新型コロナウイルスの関係もあり、夏休みも例年よりずれ込むという話もしていた。皆さんも中学校のたよりを見て承知かと思うが、8月6日か7日まで授業は実施され、その後に夏休みとなる。したがって、中学校では授業の遅れを取り戻すということもあり、なかなか一緒になって実施する時間が取れないという話であった。

ただ、別の話であるが、浦川原中学校の体育祭では、我々NPOが地域活動支援事業で購入したテント14セット全てを貸し出す予定である。教頭先生からは「今後の新型コロナウイルスの状況もあるが、地域と関わることがあれば、ぜひ、参加、協力したい。」という話であった。

現時点でリウラとラウラの修繕に関して、小・中学生が作業に関わることはできない状況であるが、地域の方には今後、声をかけて協力していただきたいと考えている。

【藤田会長】

有機溶剤の使用には危険も伴うということで、実際の作業には参加できないが、完了後に何か企画を行うということで了解いただきたい。

【春日委員】

中学生の意見交換会もあるが、実際に浦川原のシンボルであるリウラとラウラに携わることが良いチャンスなのではないかと思い、非常に強い思いがあったため、残念に思うが仕方ない。

【藤田会長】

続いて「(2) 次回の開催日時等について」、8月28日(金)午後6時30分から、ここコミュニティプラザでの開催としたい。よろしいか。

(会場内から「はい。」の声)

続いて、事務局から、今年度の委員名簿について説明いただく。

【五井野次長】

本日、前回の協議会で同意された電話番号の入った名簿を配布した。個人情報を含んでいるため、取扱いについては十分注意していただきたい。

【藤田会長】

委員の皆さんから了解は得ているが、取扱いについては十分注意いただきたい。
他になにかないか。

(会場内から「なし。」の声)

なければ、第5回浦川原区地域協議会を閉じる。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。